

科目名	国語Ⅱ	英文表記	JapaneseⅡ	平成25年1月29日			
科目コード	3002						
教員名:網谷厚子(前期)・澤井万七美(後期) 技術職員名:				作成			
対象学科/専攻コース		学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
全学科		3年	必	履修	2単位	講義	通年
科目目標	1 論理的かつ効果的に日本語を運用できる能力を身につける。 2 「百人一首」の古典作品についての理解を深める。 3 社会で要求されるコミュニケーション能力を身につける。						
総合評価	1 小論文・短文や長文の要約、文学作品やプレゼンテーション 25% 2 定期試験(前期) 25% 3 後期提出物 5% 4 小テスト(漢字・語彙) 5% 5 企画プレゼンテーション 10% 6 定期試験(後期) 30%						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)		達成度目標の評価方法			目標割合	
	①	論理的かつ効果的に日本語を運用できる。	⇒	学生の作品(小論文・要約・文学作品・プレゼンテーション)などを評価する。			25%
	②	「百人一首」の古典作品を理解できる。	⇒	前期の定期試験で評価する。			25%
③	社会で要求されるコミュニケーション能力を身につける。	⇒	後期の提出物・企画プレゼンテーション・小テスト・定期試験で評価する。			50%	
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
		◎		○			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		55	5	30	10	100	
基礎的理解	①②	55				55	
応用力(実践・専門・融合)	①②			30		30	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	③				10	10	
主体的・継続的学修意欲			5			5	
授業概要、方針、履修上の注意	1 学生の主体的活動となる場数を数多く設定し、自己PRの作成とプレゼンテーション、様々な課題解決のための小論文、短時間での要約、文学作品の創作など、様々な言語活動をさせる。 2 古典作品である「百人一首」の意味を理解させるとともに、ゲームを通して古典作品を楽しむ態度と日本文化とを身につけさせる。 3 言語・非言語両面における社会人としてのコミュニケーション能力を高める。						
教科書・教材	『国語総合』(教育出版)・『新国語便覧』(第一学習社)・『日本語の詩学』(網谷厚子著)・教員による自主編成教材						

**授 業 計 画**

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェク
1	自己PRを書く	2	「自己」についてリストアップする。		
2	自己PRをする	2	自己PRを書き、プレゼンテーションし相互評価する。		
3	現代の世界・日本の課題を考える (1)	2	世界・日本の解決すべき課題をリストアップする。		
4	課題の解決策について書く	2	上記についての解決策について小論文を書く。		
5	短文の要約	2	短文を要約し、短時間での理解力を身につける。		
6	長文の要約	2	長文を要約し、短時間での理解力を身につける。		
7	「俳句」作品を創る	2	日本文化の一つ「俳句」作品を創作する。		
8	ディクテーション	2	耳を通して入る情報の把握力を身につける。		
9	言葉とゲームⅠ	2	「百人一首」について理解を深める。		
10	言葉とゲームⅡ	2	同上		
11	言葉とゲームⅢ	2	同上		
12	言葉とゲームⅣ	2	「百人一首」を楽しむ。		
13	現代の世界・日本の課題を考える (2)	2	解決すべき課題についての小論文を書く。		
14	エントリーシートを書く	2	実際にエントリーシートを書く。		
15	10年後の自分について	2	10年後の理想的な自分を描かせ、進路実現意欲を高める。		
期末	期末試験	[1]	上記についての理解を確認する。		
16	ビジネス文書Ⅰ	2	ビジネス文書の概要について学ぶ。		
17	ビジネス文書Ⅱ	2	基本的な書式を身につける。		
18	ビジネス文書Ⅲ	2	企画書について学ぶ。		
19	ビジネス文書Ⅳ	2	企画書のさまざまなモデルケース・書き方のセオリーを学ぶ。		
20	ビジネス文書Ⅴ	2	オリジナルの企画書を作成する。		
21	社会人スキルⅠ	2	社会において必要な言語・非言語コミュニケーションを確認する。		
22	社会人スキルⅡ	2	場面別の言語運用のモデルケースを学ぶ。		
23	プレゼンテーション準備Ⅰ	2	企画書のバリエーションについて学ぶ。自分が作成した企画書		
24	プレゼンテーション準備Ⅱ	2	の見直しを行い、チェックすべきポイントを確認する。		
25	プレゼンテーションⅠ	2			
26	プレゼンテーションⅡ	2			
27	プレゼンテーションⅢ	2	オリジナルの企画書内容を各自プレゼンテーションする。		
28	プレゼンテーションⅣ	2			
29	プレゼンテーションⅤ	2			
30	まとめ	2	後期授業内容の振り返りを行う。		
期末	期末試験	[2]	後期授業範囲を筆記試験で確認する。		
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①					
②					
③					
<b>備考欄</b>					